

東北海区沿岸水温予報(2003年)

海域	経過 (2~4月)	現況(5月~6月上旬)	見通し (6~8月)	見通しの背景	特異現象 (漁海況)
三陸北部 (青森県太平洋沿岸; 青森水試発表)	定地水温 3月: やや低め 4月: やや低め 5月: やや低め	0m: やや低め 50m: やや低め 100m: やや低め 津軽暖流の張り出しはかなり強め 6月の水塊深度は、やや浅め	津軽暖流域の水温はやや低めからやや高めとなる。 津軽暖流の東方への張り出しは強め	6月の対馬暖流の水温は、遼瀋は広めに推移した。 勢力としては並からかなり強め。	
三陸中部 (岩手県沿岸; 岩手水試発表)	2月 表面では、本県沿岸、沖合ともに概ね平年並~高め。100m深では、本県沿岸、沖合ともに概ね平年並。 3月前半 表面では、本県沿岸5~10海里以内で平年並。本県沖合10~50海里でやや高め~高め。100m深では、本県沿岸5~10海里以内で平年並。本県沖合10~50海里で高め。 3月後半 5以下の冷水が本県沿岸に接近し、一部地域で接岸した。3月中旬には、1以下の冷水が県中部沖合5海里付近に分布が見られた 4月 表面では、県北部、県中部の沖合50海里以東を除く全海域で平年よりやや低め~低め。県北部、県中部の沖合50海里以東では概ね平年並。100m深では、沿岸付近で概ね平年並。沖合10~50海里付近ではやや低め~低め。	5月 表面では、黒崎沖合20~50海里からトドヶ崎沖合20海里付近にかけてやや低めのほかは、概ね平年並。100m深は、黒崎沖合20~50海里から楯島沖合20~30海里付近にかけて平年よりやや低め、尾崎沖合50海里付近でやや低めのほかは、概ね平年並。 6月 表面では、沿岸、沖合で概ね平年並。100m深では、黒崎沖合20海里付近とトドヶ崎沖合30海里付近でやや低め、尾崎沖合30海里付近から楯島沖合50海里付近にかけてやや高めの他は、概ね平年並。	期間前半は中、底層を中心に低め~やや低め、期間後半は低め基調の平年並に推移する。	期間前半は、中底層に依然として親潮系冷水が見られるため、その影響が残るものと予想される。 期間後半は本県沖合への黒潮系暖水の波及が見込まれるが、親潮系冷水の影響が完全に消えないことが考えられる。 仙台管区気象台の3ヶ月予報で、気温は7月までは平年並~やや低めであるが8月には平年並となっていた。	今期のオキアミ漁は2月下旬から始まったが、漁期当初は低調であった。その後3月の冷水接近に伴い沖合に漁場が形成され、最終的には漁獲が1つばいまで水揚げがあった。 5月に県南部でカラフトマスがまとまって水揚げされた。
三陸南部 (宮城県沿岸; 宮城水試発表)	2~3月: 表面、100m深とも平年より1~2低め。 4月: 沖合海域を中心に、表面で平年より2~5低め、100m深で2~3低め。	142°~143°Eの海域で帯状に、表面、100m深ともに平年より2~4低め。	親潮系冷水の分布する北部沖合海域は平年よりやや低め~低めで推移し、黒潮系暖水の影響を受ける沖合中南部海域は平年よりやや高め~高めで推移する。 沿岸海域は平年並で推移。	類似年は1982年で、現在、金華山沖に分布する黒潮系暖水の位置に暖水塊が存在した。この暖水塊は西進の後北東へ移動したため、1982年7月の本県海域は全体的に高め傾向となった。主成分スコア自己回帰モデル、偏差持続モデルでは全体的に低め傾向となったが、類似年を考慮して予測	・クラゲが金華山周辺定置網に多数入網 ・マンボウ、オットセイ、カタクチイワシが同所的に存在(気仙沼沖)。 ・仙台湾に流れ藻が多い。 ・サルパsp.がリレパックネットに多数入網 ・例年に比べてカタクチイワシが仙台湾に多数来遊(5月)。
常磐北部 (福島県沿岸; 福島水試発表)	2月: 県南部は沖合からの暖水波及がみられたが、その沿岸側に親潮系冷水が差し込み、やや低めとなった。3月: 親潮系冷水、黒潮系暖水とも勢力は弱く、水温はやや低めで推移した。4月: 親潮系冷水の勢力が強まり、0m深5台の冷水が県中部沖に分布した。黒潮系暖水の波及はみられなかった。	5月: 30海里以東に親潮系冷水が南下し、表層~下層でやや低め~極めて低めとなった。黒潮系暖水は県南部のごく沿岸で弱い波及がみられるのみ。6月: 50海里以内は親潮系冷水に覆われ、特に、平年ならば黒潮系暖水の波及がみられる県南部で極めて低めとなった。	6月は下層を中心に平年より低めで推移する。7、8月はやや低め~平年並みで推移する。	親潮系冷水が本県沖に停滞しており、前半はその影響を受ける。後半は沖合から黒潮系暖水の波及が見込まれるため、概ね平年並み。 類似年解析では2000年が当てはまり、この年は6月下旬までは解消し平年並みとなった。100m深水温の主成分スコア自己回帰モデルによる予測では、低め基調ながらも6月~8月にかけて昇温傾向となった。	・4~5月のメロウドコ漁は、自主規制枠の8,000トンに達する好漁となった。コウナゴは低調。 ・今期のオキアミ漁は、3月下旬から始まり、昨年度を上回る水揚げ量(3,000トン超)となったが全体的には低調。 ・3月上旬にムラサキイガイから麻痺性貝毒が検出された。 ・5月上旬、例年ではほとんどみられないカラフトマスがまとまって水揚げされた。
常磐南部 ~ 鹿島灘 (茨城県沿岸; 茨城水試発表)	2月: 親潮系冷水の差し込みが継続し、鹿島灘には暖水舌が形成されている。水温は黒潮域を除いて「低め」であった。3月: 親潮系冷水の差し込みが継続し、水温は黒潮域を除いて「低い」であった。4月: 親潮系冷水の差し込みが継続し、鹿島灘には暖水舌が形成されている。水温は黒潮域を除いて「低い」となっている。	4月後半から5月には、鹿島灘で一時的に暖水舌が形成され、一時的に「平年並~やや高い」となったが、5月後半から前半にかけて、沿岸で親潮系冷水の差し込みが強まり、「やや低い~極めて低い」で推移し、暖水舌が形成も沖合に留まった。	6月後半から8月にかけては、親潮系冷水が沿岸を中心に広く差し込み「やや低い~低い」で推移し、鹿島灘沖合では、一時的に暖水が差し込み、「平年並~やや高め」になる。	過去に6月に冷水が強く差し込んだ年は、一時的に暖水舌等による暖水波及がみられても、全体的には1ヶ月程度は冷水傾向が継続している。 親潮第一分枝の張り出しも南偏傾向にあり冷水の勢力は強い	5月: 一時的な暖水の差し込みによりシラスの漁獲(500t程度)がみられた。

各階級の水温平年偏差の範囲

階級区分(出現率)	三陸北部	三陸中部		三陸南部	常磐北部	常磐南部~鹿島灘
		距岸10海里内	距岸10~70海里			

極めて高い (2.5%)	+2.4 ~	+4.0 ~	+6.0 ~	+2.4 ~	+4.0 ~	+4.0 ~
高い (7.5%)	+1.6 ~ +2.3	+2.5 ~ +3.9	4.0 ~ +5.9	+1.6 ~ +2.3	+2.5 ~ +3.9	+2.5 ~ +3.9
やや高い (20%)	+0.7 ~ +1.5	+1.0 ~ +2.4	1.5 ~ +3.9	+0.7 ~ +1.5	+1.0 ~ +2.4	+1.0 ~ +2.4
平年並み (40%)	+0.6 ~ -0.6	+0.9 ~ -0.9	1.4 ~ -1.4	+0.6 ~ -0.6	+0.9 ~ -0.9	+0.9 ~ -0.9
やや低い (20%)	-0.7 ~ -1.5	-1.0 ~ -2.4	1.5 ~ -3.9	-0.7 ~ -1.5	-1.0 ~ -2.4	-1.0 ~ -2.4
低い (7.5%)	-1.6 ~ -2.3	-2.5 ~ -3.9	4.0 ~ -5.9	-1.6 ~ -2.3	-2.5 ~ -3.9	-2.5 ~ -3.9
極めて低い (2.5%)	-2.4 ~	-4.0 ~	-6.0 ~	-2.4 ~	-4.0 ~	-4.0 ~